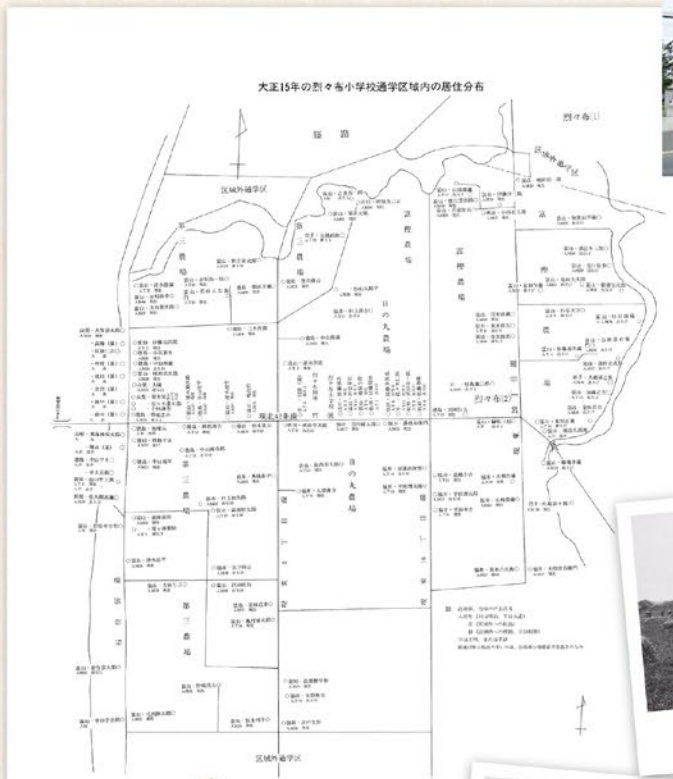


▼大正15年に作られた烈々布小学校(現在の栄小学校)の通学区域内の居住分布図。
現在の栄西地区には第三農場と記されています 出典:札幌市立栄小学校



▲現在の栄中学校前、中学校前の道路は、昔は「競馬通り」と呼ばれ、競馬場で農耕馬の競争が行われていました



中学校の前の道に馬が走っていたなんてびっくり...



北大第三農場とそこで働く人々 (北海道大学附属図書館所蔵)



栄西地区と競馬通り



《お話を聞いた小学生》
左から栄北小学校のかえでさん(6年生)、たまきさん(5年生)

《お話を教えてくれた方》
栄西連合町内会 会長 おおたけ みのる 大竹 實さん



今住んでいるまちが最初は畑だったのを知らなかった!

お話を聞いて

かえでさん
今はお祭りがあっても全員が来るわけじゃなくて一部の人だけなので、昔は全員で盛り上がっていたうらやましいです。

たまきさん
昔はサケが上ってきたという話を聞いて、最近の川は濁っているから、昔の川はきれいだったんだなって思いました。



昭和52年に撮影された烈々布神社。娯楽の少なかった昭和20年代には、烈々布神社のお祭りが最大の行事で町中の人が集まり、青年団による芝居も上演され人気を集めていました(札幌市公文書館所蔵)



大竹会長のお話によると、栄西地区に人々が住み始めたのは明治22年頃。当時は、現在の北24条から北に向かい北大第三農場がありました。農地を借りた人々は、馬鈴薯や馬のエサとなるエン麦を作り、北大に年貢を納めていましたが、土地が泥炭だったため、とても苦労していました。

昭和21年に政府により施行された農地改革により、北大第三農場は払い下げられ、農家の人たちは自作農を行い、生活は一変しました。当時の逸話として、現在の栄中学校前の北46条通は「競馬通り」と呼ばれ、秋になると各農家が農耕馬を連れてきて、競馬場で競争させ、自慢し合っていました。また、競馬通りの脇にある堀にはサケも遡上してきていたとの話も残っています。

昭和30年代に入ると、札幌の中心部から宅地化が進み、栄西地区に住む人々も増えてきました。やがて農地はなくなり、現在のような住宅地へと街並みは移り変わっていきました。